

ピックアップ事例



おきなわ津梁ネットワーク（平成25年稼働）

一般社団法人 沖縄県医師会（沖縄県）

☎ 098-888-0087

🌐 [公式ホームページ](#)

※平成30年3月時点

全体概要

- 概要
- 特徴
- 成功要因
- ネットワーク構築時の苦労
- 構築する方へのメッセージ

計画Step

1. 地域課題、要求事項の抽出
2. 必要性の検討
3. 事業概要の決定
4. 事業運営主体の組織の設置
5. 個人情報保護方針などの作成
6. ガイドライン・標準化規格などの確認
7. システム化方針決定
8. 事業計画・収支計画立案

構築Step

1. 工程管理
2. 仕様書作成・調達
3. 要件定義・設計
4. 構築
5. テスト

運用Step

1. 運用に向けた文書作成
2. システム運用保守体制決定

更改Step

1. 医療情報連携ネットワークの改善事項検討

(1) 今後の予定

平成27年に第三次地域医療再生基金が終了し、地域医療介護総合確保基金に移るにあたり、平成26・27年にかけて、次のプラットフォームづくりと機能についての検討が行われた。地域医療介護総合確保基金を受けた平成28年から3年間かけてSS-MIX2に対応したサーバに置き換える作業を行い、このタイミングで在宅における地域医療連携パスと救急現場での閲覧の機能を拡充した。

平成29年度に16施設が開示病院に加わった効果への期待は大きい。「参加施設増には大病院でネットワークを活用してもらうことが一番。そこで活用できれば、病診連携する診療所や調剤薬局も入ってくれるでしょう。患者側としても救急時に情報連携ができるメリットはとてわかりやすいはずだと考えています」（県医師会・徳村氏）。

これまで一部手動アップロードが必要だったものを自動化したり、丸ごと取り込んでレセプトデータを必要情報だけ選択してアップロードする機能を整えたり、現場の要望を取り込んだ機能を拡充・洗練させている。

平成30年4月までにごうした「EHRプラットフォームの高度化事業」を終え、在宅医療のコミュニケーションを拡充し、高度急性期から在宅まですべての段階での情報共有システムとして作り込んでいく。それ以後は、利用者本人がデータを閲覧できるようにし、様々な健康管理のサービスと連動しながら自らの健康管理に役立てる、「PHR」機能の実装に向けてシステムの機能拡充を目指す予定としている。

[全体概要](#) > [計画Step](#) > [構築Step](#) > [運用Step](#) > [更改Step](#)

[← ピックアップ事例一覧へ戻る](#)

- 3. 参加機関の募集・説明・契約
- 4. 設備工事・導入
- 5. 参加患者募集
- 6. 評価・課題整理

更改Step

- 1. 改善事項検討

[← TOPへ戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#) 

▶ 医療情報連携ネットワークはなぜ必要？

- ▶ 出発点は地域医療を良くしたいという思い
- ▶ 医療情報連携ネットワークの導入効果
- ▶ 利用者の声（導入効果）

▶ 医療情報連携ネットワークをどう作る？

- ▶ 医療情報連携ネットワークの構築手順
- ▶ 実施のポイント
- ▶ 利用者の声（苦勞した点、成功要因）
- ▶ ガイドライン、書式例など

▶ 医療情報連携ネットワークの具体例を見る

▶ 医療情報連携ネットワークとは

- ▶ データで見る
- ▶ ピックアップ事例
- ▶ 事例を探す

▶ 構築手順

- ▶ 構築手順について
- ▶ Step1：計画
- ▶ Step2：構築
- ▶ Step3：運用
- ▶ Step4：更改

▶ FAQ

- ▶ 用語集
- ▶ お役立ち情報
- ▶ リンク集
- ▶ 資料ダウンロード